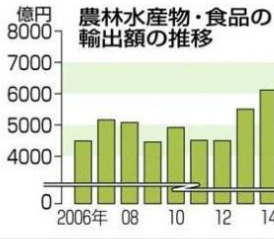


対象	小学校高学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学5年 「くらしを支える 食料生産」 中学校・地理 「日本の 農林水産業」
教科書	東京書籍等
掲載日	2016. 2. 3. 朝刊 12版 4面

食品・農産物輸出また最高 農家収入アップ課題

農林水産省が二日発表した二〇一五年の農林水産物・食品の輸出額（速報値）は前年比21・8%増の七千四百五十二億円となり、三年連続で過去最高を更新した。海外での和食ブームや円安が追い風。思わぬ地域で意外な食品や農産物が売れる現象もみられる。だが環太平洋連携協定（TPP）



発効を前に課題も多い。アラブ首長国連邦では「オロナミンC」などの清涼飲料水が人気。冷蔵庫に

輸出の増加が目立った主な品目と輸出先

品目	輸出額		輸出先		
	対前年増減率(%)		1位	2位	3位
日本酒(清酒)	140億円(21.8)↑		米国	香港	韓国
アルコール飲料(日本酒を除く)	250億円(40.2)↑		韓国	米国	台湾
清涼飲料水	197億円(23.9)↑		アラブ首長国連邦	香港	米国
緑茶	101億円(29.6)↑		米国	ドイツ	シンガポール
牛肉	110億円(34.6)↑		香港	米国	カンボジア
リンゴ	134億円(55.0)↑		台湾	香港	中国
ナガイモ	26億円(8.8)↑		台湾	米国	シンガポール
ホタテ貝	591億円(32.3)↑		中国	米国	ベトナム
みそ	28億円(9.6)↑		米国	台湾	韓国
植木	76億円(6.2)↓		中国	香港	ベトナム
丸太	94億円(36.6)↑		中国	韓国	台湾

大量のオロナミンCを常備し、食事中に飲む家庭もあるという。国産ウイスキーも好調。加工食品（アルコール飲料なども含む）は26・0%増の二千二百二十一億円となった。

農林水産物輸出額は東日本大震災で一時的に減少したが、一三年に「和食」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産へ登録され、増加に転じた。日本食レストランが増え、日本酒やみそなどの輸出が伸びた。

安全性や品質への評価も高く、中国などではホタテの需要が急増。ナガイモも台湾で薬膳原料として使われ、リンゴは台湾や香港で贈答品として人気。ただ、農産物の輸入額は九兆五千八百八十五億円と、輸出の十三倍。TPPが発効すれば、さらなる輸入増が予想され、農家の経営は厳しくなる。このため政府は「二〇年に輸出額一兆円」の目標を前倒しする方針。農水省は各産地が別々に売り込んでいた農畜産物を「ジャパン・ブランド」として統一、効率的な販売促進を始めた。和牛や緑茶などが欧米で高級品として浸透しているが、輸出額はまだ百億円程度だ。日本の農家は一般に規模が小さいため、海外販路拡大ノウハウが乏しく、輸出しても高い仲介コストで「手取り価格が少ない」（畜産農家）現実もある。輸出で「稼げる農業」のためにはIT活用や農協に輸出促進機能を持たせるなど仕組みづくりが課題になると見られる。（白山泉）

問1：前年に比べて輸出額の増減率が1番アップしたのは、どの品目ですか。
()

問2：グラフを見ると、15年の輸出額は14年からどのくらい増えていますか。
○をつけましょう。

A：約500億円 B：約1500億円 C：約2500億円

問3：「輸出増加が目立った主な品目と輸出先」の表の1位から3位までを見て、輸出先として多く出てくる3ヶ所を書きましょう。
()・()・()

発展：食品や農産物輸出が増加している理由を記事から2つ見つけましょう。

①()や()が追い風になっている

②()や()が高い